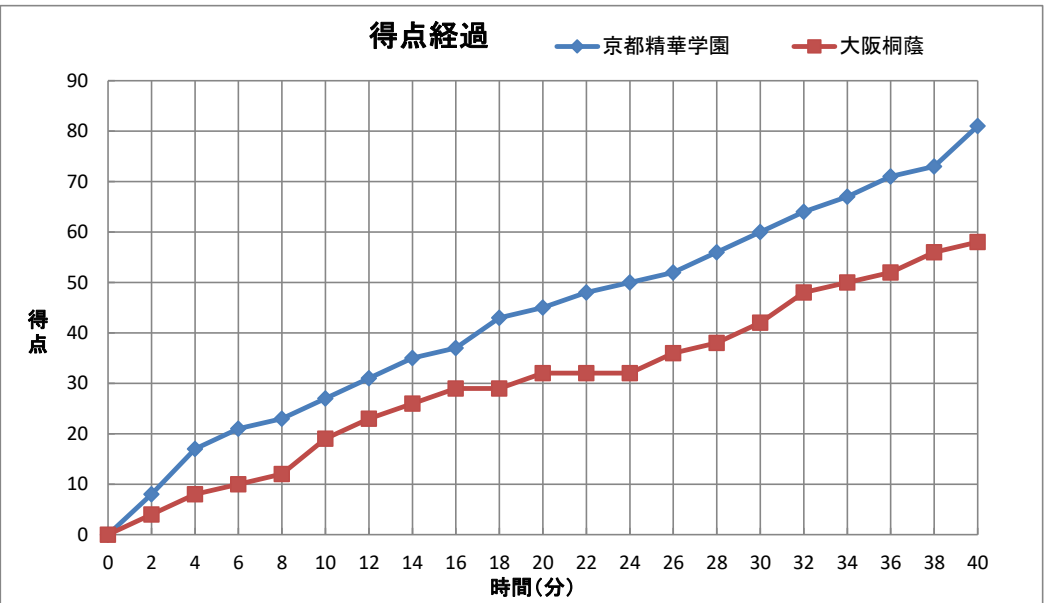




第70回近畿高等学校バスケットボール大会

個人トータル表

女子		2023/6/25		9:30 開始													
準決勝		ジェイテクトアリーナ奈良		A													
◎ 京都精華学園 (京都)		81		58 大阪桐蔭 (大阪)													
		<table border="1"> <tr><td>27</td><td>1st</td><td>19</td></tr> <tr><td>18</td><td>2nd</td><td>13</td></tr> <tr><td>15</td><td>3rd</td><td>10</td></tr> <tr><td>21</td><td>4th</td><td>16</td></tr> </table>		27	1st	19	18	2nd	13	15	3rd	10	21	4th	16		
27	1st	19															
18	2nd	13															
15	3rd	10															
21	4th	16															
番号	氏名	得点	3P	2P	FT	反則	番号	氏名	得点	3P	2P	FT	反則				
* 4	堀内 桜花	4	0	2	0	1	* 4	北條 瑚奈	0	0	0	0	2				
* 5	八木 悠香	18	0	8	2	1	* 5	片山 朋子	21	0	10	1	3				
6	川地 汐夏	0	0	0	0	0	* 6	小池 織寧	8	0	4	0	2				
7	山西 凜愛	-	-	-	-	-	* 7	井口 朝絵	3	1	0	0	1				
8	塚口 珠妃	-	-	-	-	-	8	繁田 佳伽	10	0	5	0	3				
9	石渡 セリーナ	-	-	-	-	-	* 9	唐原 璃子	0	0	0	0	2				
10	高井 星	-	-	-	-	-	10	夏野 ひまり	-	-	-	-	-				
11	雁瀬 梓	-	-	-	-	-	11	田中 里央菜	-	-	-	-	-				
12	土屋 あかり	-	-	-	-	-	12	中村 あおい	-	-	-	-	-				
13	松居 かなで	-	-	-	-	-	13	舛本 碧珠	10	2	2	0	0				
14	林 咲良	4	1	0	1	0	14	西村 亜優	6	1	1	1	4				
* 15	ディマロ ジェシカ	36	0	18	0	3	15	堀江 音	-	-	-	-	-				
* 16	橋本 芽依	6	1	1	1	1	16	岡田 若菜	-	-	-	-	-				
* 17	桃井 優	7	0	3	1	0	17	稗田 美莉奈	-	-	-	-	-				
18	ユサフ ヴラシレ アイシャット	6	0	3	0	0	18	藤澤 滯	0	0	0	0	0				
コーチ	山本 綱義						コーチ	市川 藤乃									
Aコーチ	中川 瀬名						Aコーチ	稲原 久美子									
合計		81	2	35	5	6	合計		58	4	22	2	17				
<p>クルーチーフ: 飯尾 勝紀</p> <p>1stアンパイア: 川路 宗勲 2stアンパイア: 花谷 慎子</p>																	



TO	1・2Q		3・4Q		OT1	OT2	OT3	OT4
TeamA	:	:	38:23	:	:	:	:	:
TeamB	2:48	17:47	38:23	:	:	:	:	:

〔戦評〕

第1Q
両チームともハーフコートマンツーマンでゲーム開始。高さのある京都精華は#15ジェシカを中心にゴール下で得点を重ねる。対して厳しいディフェンスから速攻を得意とする大阪桐蔭は#5片山を中心に応戦するも高さで勝る京都精華が27対19とリードで第1Q終了。

第2Q
大阪桐蔭#6小池の速攻からゲーム開始。その後も、#13舛本が3Pを2本沈め、#14西村が高さを擁する京都精華に激しいディフェンスで奮闘するも京都精華#4堀内#5八木#15ジェシカを中心に高さを活かしたプレーで着実に加点し、45対32で第2Q終了。

第3Q
第2Qに引き続き、京都精華堀内が魅了するアシストから八木やジェシカが得点を重ねる。対する大阪桐蔭は第3Q中盤まで片山、小池、#9唐原が攻めるも得点が入らなかったが、#8繁田の速いボール運びから流れを作り、片山や繁田が得点を取るも60対42と京都精華が主導権を握ったままであった。

第4Q
大阪桐蔭舛本がレイアップを決め、第4Q開始。片山、繁田を中心に速いオフェンスから得点を重ね、一進一退の攻防が続くも、京都精華堀内、八木、ジェシカを中心に会場を沸かすようなプレーを見せ、得点は詰まらず京都精華が最初のリードを保ったまま試合終了。全国大会常連校の両チームの試合には観客も多く、見ているものも感化される試合内容であった。両チームに健闘を讃え、インターハイでも頑張ってもらいたい。

戦評: 坂井 信斗 記録: 法隆寺国際高校